

箕面都市開発株式会社

平成24年度

平成25年度

決算・予算

〔速報版〕

平成25年6月

箕面都市開発株式会社

平成24年度決算の概要

1 平成24年度予算と決算を比較すると

- 予算編成時及び上半期決算時の見通しに比べ、売上高は増加し、営業利益、経常利益、当期純利益とも、**予算を大幅に上回り、経営は順調**です。

2 調停条項と比較すると

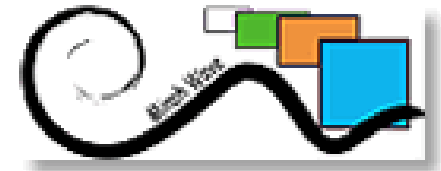
- 期末資金残高について、大幅な経費の削減効果により、**調停条項の想定推移を上回りました**。(※1)
- 純資産額について、繰延税金資産(※2)を除いても、**債務超過は解消**されました。
- いずれの利益ベース(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、**調停条項を大幅に上回りました**。

(※1):未収金等の資産額を含むため、決算書の資金残高との差異があります。

(※2):繰延税金資産とは…将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰り延べ処理することにより生じる資産であります。

3 今後の展望

- いずれの利益ベースにおいても、調停条項や平成24年度予算に比べ大幅に上回る順調な経営となっておりますが、これは、文化・交流センターの利用料金の増加と、販売管理費を全体的に削減した効果によるものです。
- 引き続き、収益拡大のために、新規事業の獲得に注力し、それに伴う投資等にも対応できる**キャッシュフロー安定化のための経営努力**をおこないます。



青森都市開発株式会社

平成24年度

決算

1. 平成24年度決算

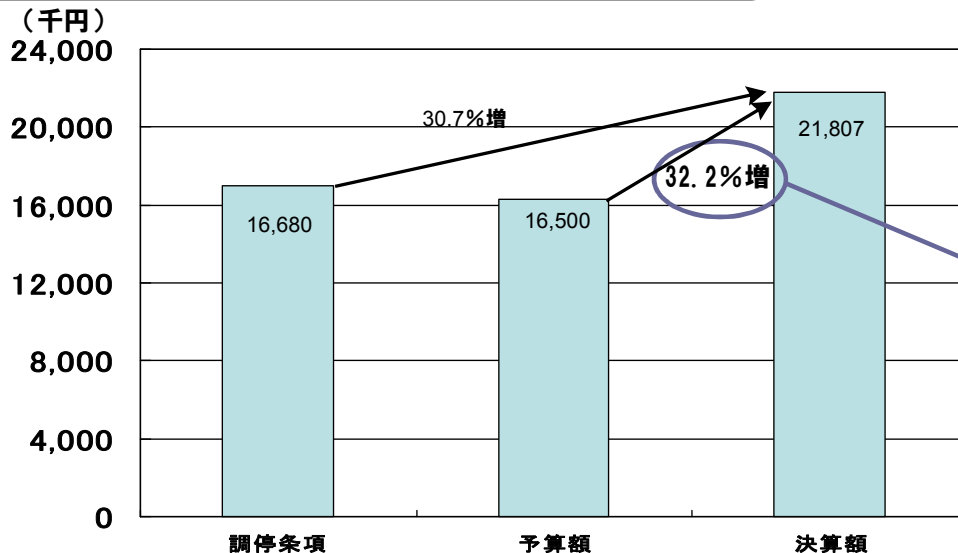
(単位:千円・%)

	平成24年度実績			平成24年度決算の比較			
	調停条項	予算額	決算額	予算との比較		調停条項との比較	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	108,000	111,500	113,450	1,950	1.7	5,450	5.0
営業利益	16,680	16,500	21,807	5,307	32.2	5,127	30.7
経常利益	14,703	14,594	19,688	5,094	34.9	4,985	33.9
当期純利益(※)	7,478	7,863	11,024	3,161	40.2	3,546	47.4
期末資金残高	86,284	88,972	91,604	2,632	3.0	5,320	6.2
純資産額	▲3,181	▲1,627	1,532	3,159	皆増	4,713	皆増

売上高は予算を大きく上回る好況
(文化・交流センター利用料金の増加)

(※)法人税等調整額を除いています。
法人税等調整額とは…税務上の損金、益金で算定される課税所得と企業会計上の費用、収益で算定される当期純利益との差額を調整するものです。

2. 営業利益(本業利益)の比較



決算においては、すべての項目において、
調停条項を大幅に上回りました。

要因

文化・交流センターの年中無休運営の認知向上と増室による効果から売上が向上したこと、人件費を含む一般管理費の経費削減により、大幅に上回りました。

3. 貸借対照表

(単位:千円・%)

	平成23年度		平成24年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
資産合計	491,924	100.0	499,072	100.0	7,148
流動資産	90,584	18.4	92,940	18.6	2,356
固定資産	401,340	81.6	406,132	81.4	4,792
有形固定資産	377,546	94.1	376,542	92.7	▲1,004
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	23,498	5.8	29,294	7.2	(※)5,796
負債合計	490,584	99.7	480,912	96.4	▲9,672
流動負債	18,181	3.7	23,801	4.9	5,620
固定負債	472,403	96.3	457,111	95.1	▲15,292
純資産	1,340	0.3	18,160	3.6	16,820
純資産(繰延税金資産除く)	▲9,490	—	1,532	—	11,022

(※)繰延税金資産の増加による

平成24年度の業績が好調だったため、**流動資産が増加**しました。

弁済計画に基づき、平成24年度分を箕面市へ返済したため、**固定負債が減少**しました。

参考1：経営内容を判断するポイント

■会社の経営状況は期間損益の状況を見るだけではなく、資金計画を見ることで経営状況を判断できます。

★調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額(貸借対照表の資産合計－負債合計)による判断

.....→ 資金計画で判断することが適切

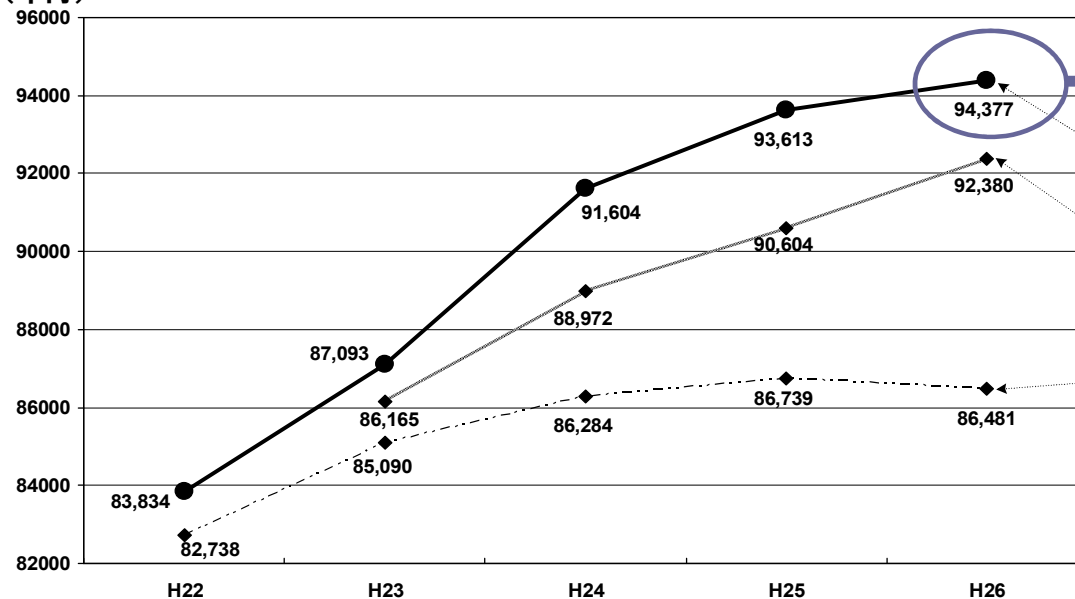
参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績			平成24年度からの予測	
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
調停条項	82,738	85,090	86,284	86,739	86,481
予算ベース	—	86,165	88,972	90,604	92,380
決算ベース	83,834	87,093	91,604	93,613	94,377

(千円)



決算ベース

予算ベース

調停条項

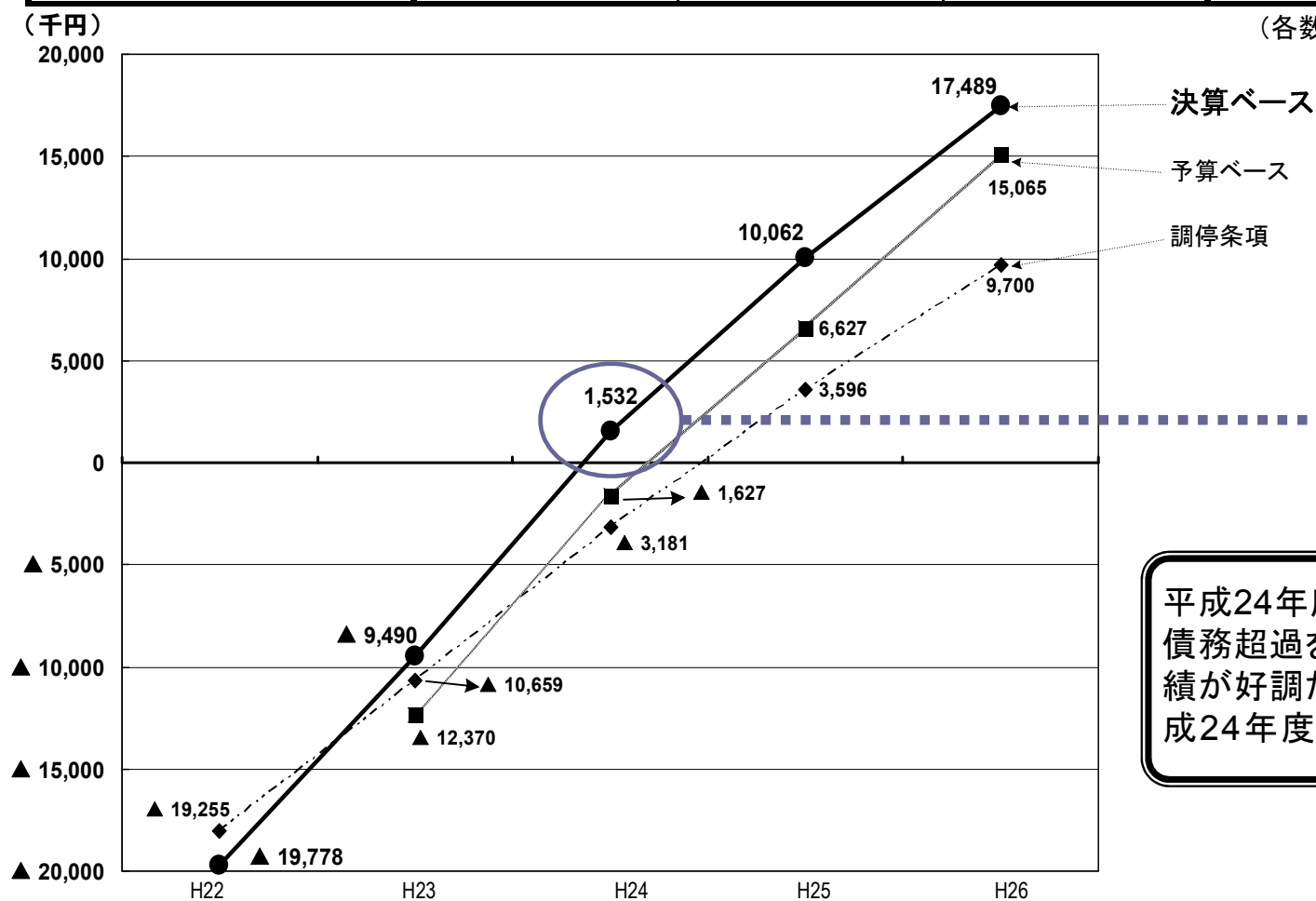
経営努力により、調停条項の想定推移を大幅に上回る予定。

(2) 純資産額の推移

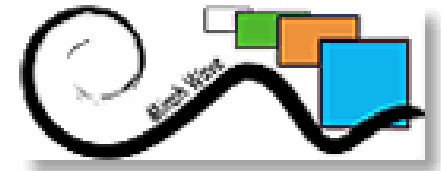
(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績			平成24年度からの予測	
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
調停条項	▲19,255	▲10,659	▲3,181	3,596	9,700
予算ベース	—	▲12,370	▲1,627	6,627	15,065
決算ベース	▲19,778	▲9,490	1,532	10,062	17,489

(各数値は繰延税金資産を除いています)



平成24年度予算ベースでは平成25年度に債務超過を解消する予定でしたが、今期業績が好調だったことにより、1年前倒しの平成24年度末で債務超過は解消しました。



愛知県都市開発株式会社

平成25年度

予 算

1. 平成25年度予算と調停条項

(単位:千円・%)

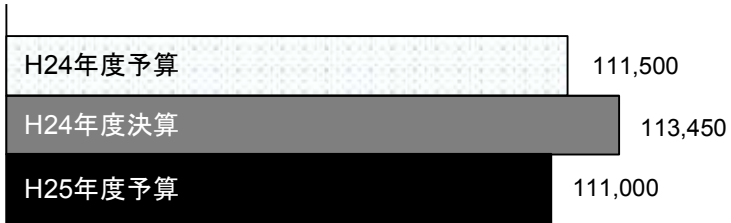
	調停条項 (平成25年度3月期)		平成24年度 予算		平成25年度 予算		平成25年度予算の比較	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	調停条項との 増減率	平成24年度 予算との増減率
売上高	108,000	—	111,500	—	111,000	—	2.8	▲0.4
受託料収入	65,157	—	66,489	—	66,577	—	2.2	0.1
所有床賃貸収入	6,907	—	6,150	—	6,150	—	▲11.0	0
土地賃貸収入	23,640	—	23,640	—	21,600	—	▲8.6	▲8.6
受取手数料収入	2,296	—	2,221	—	2,483	—	8.1	11.8
文化・交流C売上	10,000	—	13,000	—	14,190	—	41.9	9.2
営業利益	15,500	14.4	16,500	14.8	18,500	16.7	19.4	12.1
経常利益	13,561	12.6	14,594	13.1	16,552	14.9	22.1	13.4
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	6,777	62.8	7,863	7.1	8,531	7.7	25.9	8.5

2. 売上高・利益ベースの推移

- ・平成24年度決算において、売上高は予算を上回り、各利益ベースとも平成24年度予算を大幅に上回りました。
- ・平成25年度予算において、平成24年度決算と比較すると、売上高、営業利益ともに下回る見込みです。事業終了による売上の減収、業務の複雑化による専門家への費用増などから各利益ベースとも下回る予定ですが、経営内容の判断指標である期末資金残高や純資産額は、順調に推移する予定です。（6・7頁参照）

■売上高

(単位:千円)

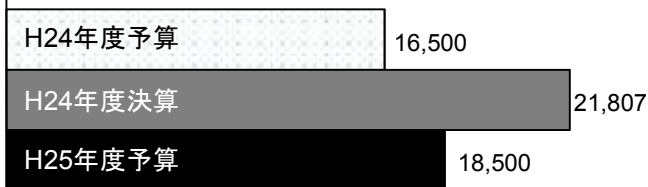


H24予算とH25予算の比較・主な要因

前年比0.4%減

- 文化・交流センターの利用料金が増収となるものの、桜井駐車場事業終了による減収幅が大きいため、全体として、売上高が減となる。

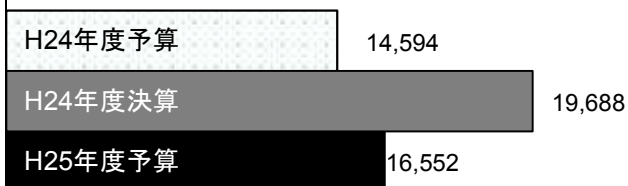
■営業利益



前年比12.1%増

- 人件費を含む一般管理費の経費削減により、営業利益は増となる。

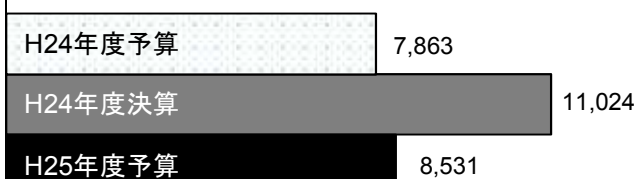
■経常利益



前年比13.4%増

- 営業利益の増益による

■当期純利益 (法人税等調整額を除いています)

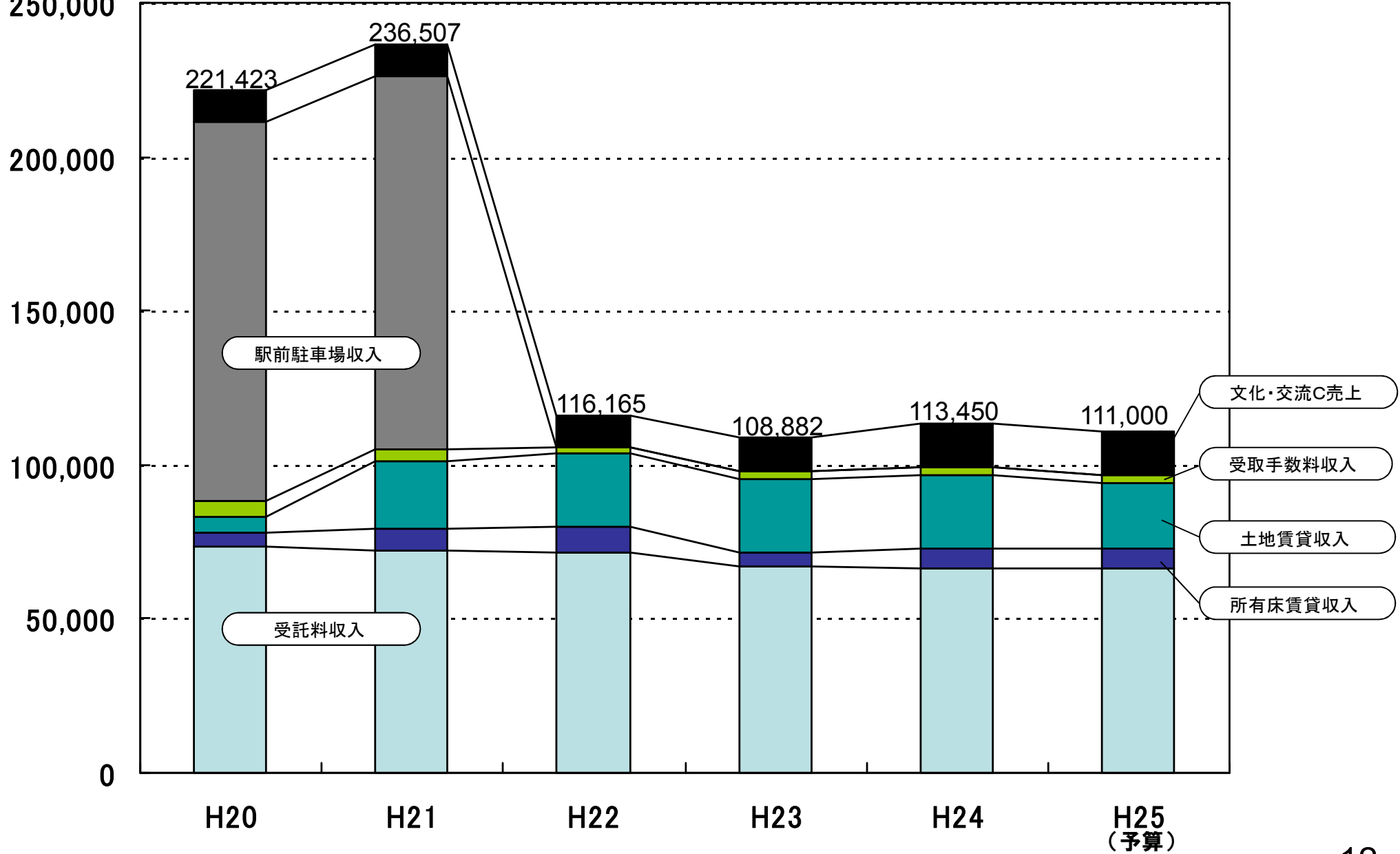


前年比8.5%増

- 経常利益の増益による

参考1：事業別売上高の推移

(千円)
250,000



参考2：売上高増減の主な要因

